



永福学園通信



令和4年5月31日

R4 第2号

東京都立永福学園
校長 緒方 直彦



キャリア教育を通じた豊かな生活の実現



キャリア教育や進路指導を語るときに、「将来の豊かな生活」という言葉がよく使われますが、「豊かな生活」とは具体的にはどのような生活なのでしょう。

本校では、キャリア教育の全体計画を策定し、一貫したキャリア教育を推進しています。そこで、年度の始めということで、キャリア教育と「豊かな生活」について、私の考えを述べたいと思います。

ある海外の学者は、キャリアとは「人生における様々な役割や仕事の全体」であり、「職業的キャリア」「家庭的キャリア」「余暇的キャリア」「市民的キャリア」の4つの視点があり、バランスよくその役割を果たすことが、充実した生活・豊かな人生につながると論じています。私も、まさしくそのとおりであると考えます。私の場合、職業的キャリアとして、校長の役割を果たすこと、家庭的なキャリアとしては、子供達にとっての父親、また、家族の一員として食事を作ったり、掃除をしたりという家庭内での仕事があります。さらに、市民的なキャリアとして、地域の消防団活動を行っています。もちろん市民として選挙には必ず投票に行きます。余暇的キャリアは、運動をしたり、読書をしたりする時間を休みの日にはなるべくとるようにしています。

児童・生徒の場合では、職業的キャリアについては、学校で学習や運動を頑張るとともに、学級での係活動等をすすんで行ったり、職業に関する専門教科等において自分の役割を果たしたり、現場実習等で、働くことや地域で活動することの大切さを学習することではないでしょうか。また、家庭的キャリアとしては、家族の一員として、自分でできることは自分でやる、手伝いをするなどがあります。さらに、余暇的キャリアとしては、ビデオを観たり、ゲームをしたり、部活動を楽しんだりするなど、好きなことや趣味をもち、生活を楽しむことです。市民的キャリアとしては、積極的に地域清掃等の行事に参加したり、18歳になったら選挙権を有するので投票に行ったり、学校行事で行う社会貢献活動に参加することがあるでしょう。

本校では、今後も、キャリア教育を通じて児童・生徒のキャリア発達を促し、まずは現在の生活を豊かにし、将来の豊かな生活につなげていきたいと思っています。

また、私は、「学校は児童・生徒にとっての身近な社会」であると考えます。多くの友達や先生方と一緒に生活する場であるので、守らなければならないルールや規則、みんなが気持ちよく学校生活を送るためにやらなければならないこと（挨拶の励行、掃除による清潔の保持等）があります。それらを、学校という場において守ったり、できるようになったりすることは、学校卒業後の生活の場でも役に立ちます。

最後に、キャリア教育は学校だけでなく御家庭や地域社会との連携により、より充実したものになることは言うまでもありません。今後も、本校ではキャリア教育を柱とした教育活動の充実を図ってまいりますので、御理解・御協力いただきますよう、お願い申し上げます。

校長 緒方直彦



One school!! One team!!



将来の豊かな生活のために（キャリア教育）

【肢体不自由教育】

肢体不自由のある子どもたちは、日常的な身体のケア等により、限られた人間関係や環境の中で生活を送っているように感じます。「子どもたちの世界がもっと広がっていくために、私たち教職員は、子どもとどうかかわっていけばいいのだろう…」そう考えながら、私達は子どもたちと向き合っています。多かれ少なかれ支援を受けながら生活していく児童・生徒にとって「いつでも どこでも だれとでも できる」ことが、その土台となる力になります。

卒業後の進路先を決めることは、とても大切なことですが、それだけではなく、進路先でどのように過ごしていくのか、また余暇をどう過ごすのか等、日々の生活全てが大事な『暮らし』と言えます。

肢体不自由教育部門では、『自己理解・自己決定』『表出・表現』等、子どもたちに身に付けてほしい力（キャリアポイント）を12の項目でまとめ、指導に活かしています。このキャリアポイントを取り入れて、一人一人に合わせた具体的な目標を立て、教科の授業だけではなく、日常生活のいろいろな場面で身に付けていけるよう学習しています。

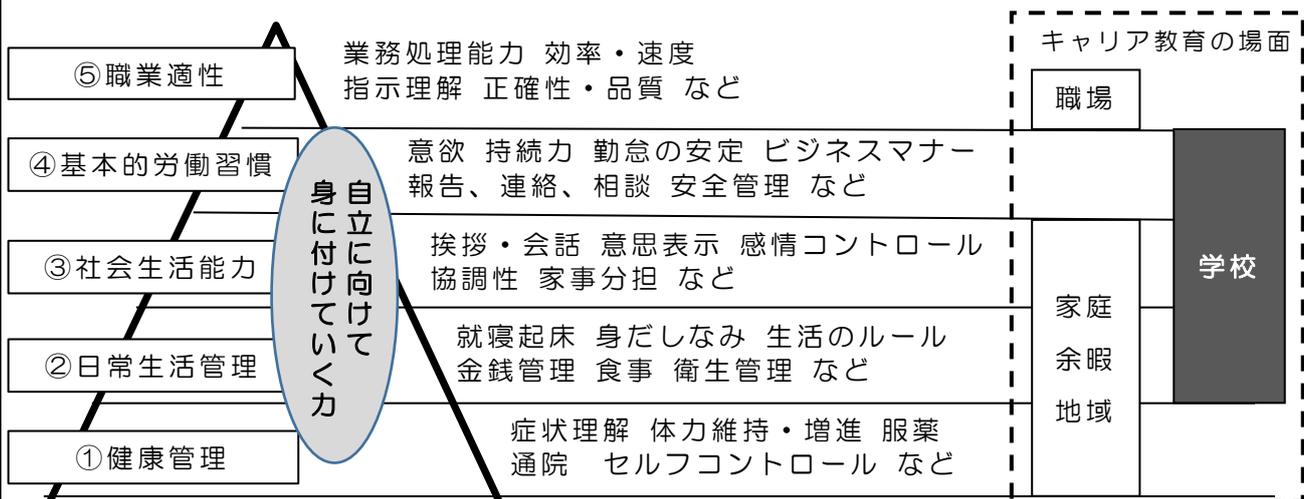
小・中・高の12年間で計画的、継続的に学習をすすめ、高等部卒業後の豊かな生活が実現できるよう、御家庭ともOne Teamで取り組んでいきます！

肢体不自由教育部門 進路指導担当主任教諭 島田裕次郎

【就業技術科】

就労生活を送り、社会参加し役割を果たすためには、安定した土台が必要です。就労に向けて学習する過程で、身に付けていく力こそ、社会で豊かに生活するための土台となる力です。現場実習や職業に関する専門教科を通じ模擬的に労働の経験を積む中で、単に進路先を決めるということでなく、バランスよく社会参加することを学習し、自立につなげたいと考えています。

いよいよ6月には、2年生、3年生は現場実習が始まります。御家庭と連携して学習を進めていきたいと考えておりますので御協力、御指導をよろしくお願い申し上げます。



就業技術科 進路指導担当主幹教諭 森川 崇

東京都立永福学園

○肢体不自由教育部門

副校長 秋本 友美 小松 弘喜
主幹教諭 池田 佳信

○就業技術科

副校長 山崎 裕之
主幹教諭 土田 律子



〒168-0064

東京都杉並区永福1丁目7番28号

電話 03-3323-1380

ファクシミリ 03-3323-1381

ホームページ

<http://www.eifuku-sh.metro.tokyo.jp>